No.13
令和８年
春・夏

職人の技を受け継ぎ歴史・文化を継承する

職大だより

公益社団法人 金沢職人大学校

巻頭言

＜持田武夫先生を偲ぶ＞

先号の山出保元金沢市長に続き、金沢職人大学校の礎を築いてこられた方の訃報をお知らせしなければなりません。持田武夫先生が去る２月３日に94歳で逝去されました。金沢職人大学校を代表してここに謹んで哀悼の意を表します。

持田先生は、昭和６（1931）年鳥取県斐川町（現 出雲市）に大工の家の長男として生まれ、終戦の翌年に15歳で地元の大工に弟子入りされました。その間、10歳の時に父親を大東亜戦争のマレー半島上陸作戦で亡くされ、ご本人も14歳で予科練（海軍飛行予科練習生）に入隊されますが､約八ヶ月半後に終戦を迎え、故郷に戻られます。

持田先生、松江城の模型とともに
（左から７人目､昭和25－30(1950－55)年頃）

住み込みで五年間の大工修行の後、年季あけとなる丁度その頃、地元の松江城の修理工事に呼ばれ、若干20歳で文化財建造物の修理現場に大工として関わることになります。これが文化財建造物に携わる人生のスタートとなります。

その後、昭和46（1971）年から（公財）文化財建造物保存技術協会に勤務され、酒垂神社（兵庫県豊岡市）、姫路城（兵庫県姫路市）、古井家住宅（兵庫県姫路市）などの重要文化財など多くの建造物の修復や修理に携わられ、後に（公財）文化財建造物保存技術協会参与、（一財）京都伝統建築技術協会理事長や（一社）日本伝統建築技術保存会顧問などを歴任されました。平成10（1998）年には日本建築学会賞文化賞を受賞、平成13（2001）年には勲五等双光旭日章を受章しておられます。

金沢職人大学校においては平成12（2000）年より修復専攻科講師として教鞭をとられ、以来、令和２（2020）年までの20年間の長きにわたり、様々な授業を通じて金沢職人大学校の教育を牽引されてきました。その間、文化財あるいは歴史的建造物、伝統技術の継承を担う次世代の技術者や技能者を数多く育成してこられました。それらは金沢職人大学校においてかけがえのないものであり、平成13（2001）年に発足した「持田塾」という独自の研究・研修活動として教え子たちに継承されています。

持田先生の教育内容の特徴の一つに「規矩術（きくじゅつ）」があります。先生はこの道の大家であり､平成５（1993）年、近世規矩によって文化庁の「選定保存技術保持者」に認定されておられます。また「建築規矩術 一軒隅」（北國新聞社、2014年）など、技術の記録と普及のための書籍を執筆されておられます。

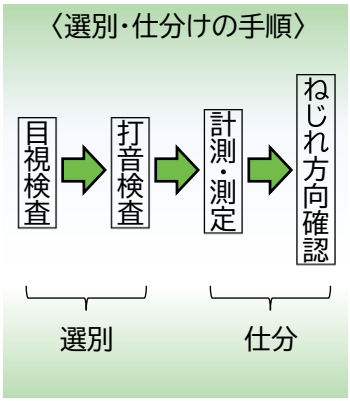
規矩術とは、差金（さしがね 指矩）を使って、複雑な屋根の勾配や隅木の架構に必要な図面を描き、墨付けをするための高度な数学的・幾何学的技術です。なかでも近世規矩は江戸時代以降に発達した精緻な技法を指し、重要文化財などの歴史的建造物の修理・復元においては欠かせない技法です。

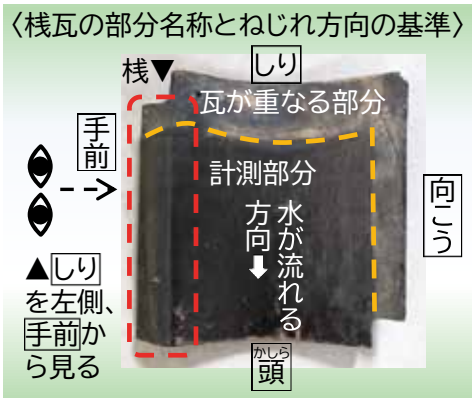
平成12（2000）年から逝去されるまでの26年間、先生が金沢職人大学校に残された足跡は、誰からも敬愛されるそのお人柄とともに、永遠に語り継がれていくことでしょう。衷心よりご冥福をお祈りいたします。（坂本英之）

瓦科　古い桟瓦の選別・仕分けについて
中堅技術者研修（初級クラス）の様子
～職人によって受け継がれてきた伝統技能を見て・聞いて・体験して学ぶ～

▲演習前に実際にねじれ方向の異なる桟瓦を配置し、隙間がどのように空くかを確認。隙間が大きいほど雨漏りのリスクが高くなり、交互に葺くことで隙間が少なくなる。

文化財建造物保存に携わる研修者に向け本校瓦科講師指導のもと、古い桟瓦の選別・仕分け・瓦葺き演習を行いました。古い桟瓦を一言で再利用するといっても全ての枚数が使えるのではなく、雨漏りの原因となる劣化した瓦は取り除いて利用可能な瓦を選別します。また瓦は焼しめると一割程縮む為大きさにばらつきやねじれが生じます。瓦の大きさとねじれ方を仕分することで隙間を少なく葺くことが可能です。





▲打音検査→瓦の全体を叩いた音で目に見えないひびを探す。

▲ねじれ方向の確認→「しり」を左側に「手前」側からみて跳ね上がっている方向を目視で確認・仕分する。

研修生は古い瓦を再利用するにも一筋縄ではいかない大変さを感じ取り、瞬時に判別し瓦を葺いていく職人の技に改めて感心していました。実際に見聞きし・体験することで、各々の修復現場を進める上で注意・考慮することを早速思い描いているようで、頼もしい限りでした。

▲瓦葺演習→研修生自身が仕分けた桟瓦を実際に葺いてみる。大きさや反り具合が一枚ずつ異なる為スムーズな配置が難しい。

造園科　雪吊りと燈籠（とうろう）こも掛け研修を通して
研修生と講師にインタビュー
～2年間の研修を終えて～

昨年12月中旬、職大中庭で「福井の方に傾いとる！」「あっちじゃ分からんぞ！」と声の掛け合いが聞こえてきました。造園科の雪吊りの研修が行われているところでした。

2年間の研修を受けた研修生にとっては、3度目の冬の研修です。【これまで研修を受けて感じたこと】を造園科10期生に聞いてみました。『今まで知らなかった**金沢の文化や技術を知り**、薦掛けでは**金沢の美と技を感じ**た』、『他の研修生や講師から**異なる方法や考え方を知ることができ、使える様になった**』、『現場では教われない細かな事や**幅広い知識を聞けて勉強になる**』と確かな手ごたえを感じている様子でした。

また『職大で**みんなと意見交換しながら作庭が出来てとても良い**』、『色々な竹垣をどのように作っているか**知ることができてとても楽しかった**』、『**金沢の伝統を受け継ぐことができる**』と純粋に知ることへの楽しさ、喜びを感じているようでした。【今後の抱負や目標】については熱意を胸に、『**知り得る事は出来るだけ吸収したい**』、『**下の世代に伝えられるようさらに努力します**』と未来への抱負を聞くことが出来ました。

講師の方からは、当校の先輩として【研修生に向けて学び・挑戦してほしいこと】を『**造園の技法や知識を知ることで、いろんな視野が広がり、いろんな考えが生まれる。**講師からいろんな事、知識を得てほしい。**本物を知ることが大事です**』とお話されていました。

（造園科10期生 角谷講師/池田講師取材）

▼釜敷きのようなこの丸い形のもの、何だと思いますか？

“ざぶとん”という名前で、木の枝に雪吊りの支柱をのせる時に木が痛まないように敷いて使います。職人さんが雪吊り直前に器用に藁縄で編んでいましたよ。

▲こも掛けした燈籠

冬の中庭で待ってるよ！

▲造園科10期研修生の皆さん
雪吊り・燈籠こも巻き研修後
実習棟にて

本科教養講座

令和７年11月７日(金)

「歴史的建造物 修復における 手仕事について」

安田建築
安田 正太郎 氏　*Syotaro YASUDA*

当校の本科一期・修復専攻科一期修了生であり、両科の講師を務められる大工の安田氏をお招きした。若いうちから興味をもって経験を積んで欲しい。自分を追い込んで、楽しんで、向上心をもつとよい。人との出会いが大きな財産になる。修復専攻科で規矩術の神様持田先生と出会って、人となりからも学んだことなど、技術だけでなく、気持ちの持ち方についても伺いました。

本科研修生の
教養を広げる目的で
年に数回実施

令和８年２月６日(金)

「加賀藩と 藩主前田家の歴史」

前田土佐守家資料館　副館長兼学芸員
竹松 幸香 氏　*Yukikoh TAKEMATSU*

加賀藩と前田家の関わり、所領の広さ、当主が前田家一系で変わることなく安定した治世、加賀藩には殿様が9人いるといわれたほどの加賀八家老中たちの豊かさなどのほか、加賀藩 16 代当主の日記から、食事の献立や江戸詰めの様子、金沢での暮らしぶりをご紹介いただきました。 古文書の解読から、お殿様が身近に感じられる講座となりました。

令和７年度　職人さんの教養講座
謡曲教室「26期生」 お茶教室「20期生」

修了式を
開催しました

お茶と謡曲は職人の嗜みであるとして、月の第1＆3水曜日はお茶教室、第2＆第4水曜日は謡曲教室を開催しています。一年ほどかけて、それぞれの入門の手ほどきをしていただいています。

▼謡曲発表会＆修了式
令和8年2月21日(土)
県立能楽堂別館 第三舞台
謡曲「鞍馬天狗」では、役に分かれて披露

▼お茶会＆修了式
令和8年３月１日(日)
市民芸術村「里山の家」
桃の節句がテーマ、主菓子の銘は「橙」

子どもマイスタースクール「12 期生」
令和６年６月～令和８年３月

伝統的建造物にかかわる職人の技を子どもたちにも伝えようと、2 年間にわたって実施した「ものづくり」の成果を披露しました。

▲修了作品展　令和8年3月2日(火)～13日(金)
金沢市役所第二本庁舎　エントランスホール

▼修了式
令和8年3月28日(土)
本校 第二実習棟 研修室
修了生 16 名

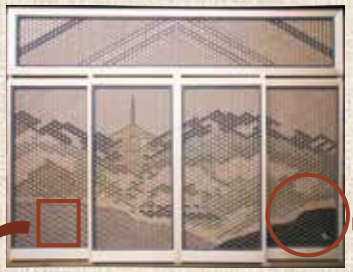
職大
ほっと
コラム

職大講師を紹介します

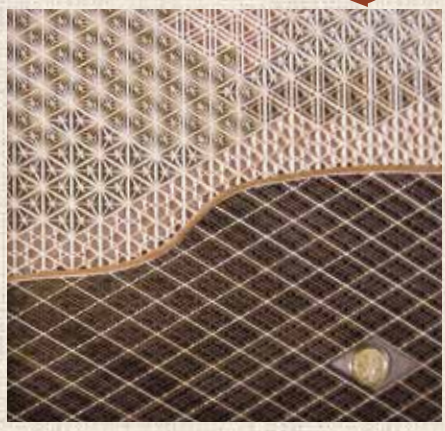
建具科 遠藤（えんどう） 外数（そとかず） 講師

「現代の名工」厚生労働省 2014 年

「内閣総理大臣賞」第 33 回全国建具展示会 1999年



◂面取り菱卍　厚さ4㎜の木に、1㎜の黒炭が埋め込んである。



▲組子入り間仕切り戸（部分拡大）
木の色合いを生かし、組手を工夫して、絵画のような色彩の変化や奥行き感が出せる。

記事中の建具、組子はすべて遠藤さんの作品

家業を継いで…

親が建具屋だから、職場が遊び場だった。勉強では親に手をかけてもらったが、工作では親の手をかりずに好きに作っていた。祭り好きで能登キリコを作るのが大好きだった。製図を描くのが得意で、建築設計士になりたかった。専門学校に合格して、さあ入学金を納めよう、というタイミングで母親が体調を崩し、兄が実家の経営を継ぎに戻ってくることになった。体の弱い父親から、兄弟二人で実家を継いで欲しいと言われ、それなら外で修行したいと言うと、「おれをなめてるのか！」と一蹴され、実家の内弟子になり、他の内弟子の下っ端で競争させられた。最初の半年は後悔の連続で、母親にずいぶん慰められた。

15年くらいして、一通りの仕事ができるようになった頃、父親から「全国建具組合の展示会にチャレンジしてみるか」と言われたことで、職人として認められたのだなと感じた。

人に教えて、初めて自分のものになる…

職大の研修生は中堅技術者なので、10 年、20 年とやってきた、それぞれの色がすでに付いている。その人に付いたものを排除せず、自分の言いたいことが伝えられたら、その技能が自分の中で腑に落ちたものになる。

職人は毎日が勉強。品物として完成しても、自分の中では納得していない。ずっと葛藤がある。建具の仕上りの技術はどんどん進歩しているし、お客様の目も肥えてきているので、技能を底上げして、後に続いてほしい。

【編集後記】

長年大変お世話になった持田武夫先生の訃報に接し、謹んでご冥福をお祈りするとともに、これまでいただいた職大への多大なるご尽力に深く感謝を申し上げます。

私自身、修復専攻科第1期生として学びましたが、持田先生は国選定保存技術保持者でいらっしゃりながら、誰に対してもどんな初歩的なことでも優しく丁寧に教えてくださいました。お酒が大好きで、何度かご一緒させていただきましたが、いつもニコニコとこちらの話をじっくりと聞いていただきました。そんなお人柄に触れ、技術力はもとより人としてとても魅力にあふれたすてきな方だっただけに、今回の訃報は残念でなりません。

持田先生、これまでお世話になり本当にありがとうございました。（Y.I）

金沢職人大学校で高度な伝統技術を習得した職人たちが
古い建物などの修理に関する相談を承ります！
あなたの「出入り職人」見つかります

職金人沢 アーカイブ

業種から探す

修理項目から探す

キーワードで探す

【発行・連絡問い合わせ先】
公益社団法人 金沢職人大学校
住所：石川県金沢市大和町１番１号
＊金沢市民芸術村の一角にあります。
電話：076-265-8311　ファックス：076-225-8314
Web サイト：https://www.k-syokudai.jp/
事務局：平日 9:00-17:00/土日・祝休み